



原発災害と教育界の課題

大森直樹（東京学芸大学）

いまま福島の子どもの大半は放射性物質による汚染地でくらしている。この状況を前に、全国の教育界が取り組むべき課題は何か。3点について論じたい。

子どもを汚染地にとどめる政策

第1の課題は、なぜ子どもを汚染地にとどめる政策が続けられているのか事実を検証することだ。結論の半分を先回りして述べると、政府が発した3つの政策の影響が大きかった

1つは、原子力災害対策本部による警戒区域・計画的避難区域・緊急時避難準備区域の設定だった（2011年4月22日より。公立15校が臨時休業、同53校が臨時移転となった）。とくに計画的避難区域の設定により年20ミリシーベルト（mSv）を超える区域の住民に避難を求めたことの意味は重大だった。年20mSv以下の区域の住民には最小限の対応しかおこなわない、という政策の方向性が鮮明になったからだ。チェルノブイリ原発事故から5年後の1991年チェルノブイリ法が年5mSvを超える区域の住民に避難を求めたことと比較すると、日本では安全の基準が4倍も緩和されてしまった。

2つは、文部科学省が2011年4月19日に発した「福島県内の学校の校舎・校庭等の利用判断における暫定的考え方について（通知）」により、警戒区域・計画的避難区域・緊急時避難準備区域以外の福島県（平常教育区域と呼称する）の学校を対象として、教育を継続する判断の「目安」を年20mSv以下としたことだった。具体的には、校庭が1時間3.8マイクロシーベルト（ μ Sv）（24時間と365日に乗ざると年33.8mSv、同通知の計算式で年20mSv）未満の場合、「校舎・校庭等を平常どおり利用して差し支えない」とした。同通知は、「こんなに線量が高い中で教育を続けても良いのか」という人々の不安を怒り

目次

原発災害と教育界の課題	1
人間が制御しきれない核技術による原発が何故拡大し続けるのか、歴史的経過と現在への疑問	4
「恨」は、深まるばかり	9
「朝鮮王妃殺害と日本人」紹介	17
万葉集を読み返して	18
交流会 Q&A	19

へと転化させた。しかし、それと同時に、教育行政職に対しては、「国が大丈夫と言っているのだからそれに従おう」という意識と行動を引き出していった。

3つは、文部科学省が2011年8月26日に発した「福島県内の学校の校舎・校庭等の線量低減について（通知）」により、平常教育区域の「目安」を年1mSv以下に「転換」したことだった。具体的には、校庭が1時間1 μ Sv未満の場合、校舎・校庭等を平常どおり利用して差し支えないとした。1時間1 μ Svを換算すると年8.8mSvとなり、本来であれば、年1mSv以下の「目安」と矛盾する。だが、同通知は、①365日ではなく学校滞在の200日の放射線量のみを問題として、②4・19通知では8時間とみなしていた屋外滞在時間を2時間とみなすことで、換算後の数値を年1mSv以下に収めていた。

さらに問題なのは、4・19通知と8・26通知が、たとえ地域における線量がどんなに高くても、学校内が一定の基準値以下にとどまっていれば、通常のエデュケーション活動を認めることを共通の本質としていたことだ。実際、両通知の後に、平常教育区域内で新たに臨時休業や臨時移転をおこなった学校は存在しない（久之浜1小・久之浜2小・久之浜中は緊急時避難準備区域に準じての臨時移転）。とくに8・26通知は、年20mSvの撤回を求めてきた世論の要求を吸収しつつ、年20mSvの避難基準を下支えしてきた（8・26通知は失効することなくいまも生きている）。

子どもの被災現実を見つめる取り組み

第2の課題は、「平常教育区域」における子どもの生活の現実を見つめて記録することだ。福島市内の県立定時制高校の教諭中村晋は、生徒の言葉を次のように記している。

先生、福島市ってこんなに放射能が高いのに避難区域にならないっていうの、おかしいべし。これって、福島とか郡山を避難区域にしたら、新幹線を止めなくちゃなんねえ、高速を止めなくちゃなんねえって、要するに経済が回らなくなるから避難させねえってことだべ。つまり、俺たちは経済活動の犠牲になって見殺しにされるってことだべした。俺はこんな中途半端な状態は我慢できねえ（2011.5.26）

ここには、「平常教育区域」の設定とは何だったのか、その本質へと迫る手がかりがある。「俺はこんな中途半端な状態は我慢できねえ」という言葉には、人間が人間らしく生きていくために必要とされる心意気が表現されている。

2013年5月現在、県外に避難して全国の学校園に就学している福島の子どもの数は1万986人に及ぶ。埼玉県の学校園に2012年に就学していた福島の子どもの数は1017人だったが、その中の1人について、所沢市の小学生が次の作文を書いている。

『みんなの放射能入門』を読みました。・・・いちばん「びくっ」とした所は、大人より子どもの方が放射線を取りこみやすいことが書かれていたページでした。ももちゃん（同書掲載の避難した子どもの名前）が大へんだとゆうことがわかりました。それは友だちとはなればなれにしなければいけないことです。・・・たった一年でしたがぼくのクラスにも、福島から原発のえいきょうで転校してきた子がいました。その子も、ももちゃんと同じ気持ちだったのかなと思いました（2013.9.10）

福島から避難した子ども、福島に戻っていく子ども。こうした子どもの生活の現実を見つめる教育実践をつくりだすことが、いま全国における共通の課題となっている。

学校の集団避難と保養を前進させる条件

第3の課題は、子どもの被ばくを少なくすることだ。学校に関する取り組みを4点概観しておきたい。

1つは、2011年4月26日に、福島県教職員組合が、福島県教育委員会に対して、「放射線量の高い学校での授業は行わず、休校もしくは、放射線量の低い地域への移転など、子どもたちの受ける線量を減らすため具体策を講じること」(国民教育文化総合研究所東日本大震災と学校資料収集プロジェクトチーム編『資料集 東日本大震災・原発災害と学校 岩手・宮城・福島の教育行政と教職員組合の記録』明石書店、2013年、529頁)を求めていたこと。

2つは、被災した学校の集団避難を受け入れる提案が、他県の自治体により行われていたこと。3月31日、熊本県人吉市は、中学校丸ごと1校の受け入れを東北3県の教委に表明していた。

3つは、5月15日から、郡山市に立地する福島朝鮮初中級学校の在校生15人全員と教員が新潟朝鮮初中級学校に移動して泊まり込み、両校が合同授業を行ってきたこと。2週間に1度、週末に郡山の保護者のもとに戻ることを繰り返し、2012年12月まで続いた。子どもを放射線の被害から守るため、教職員と保護者が協議を重ね、実際に行動した重要な事例である。

4つは、2012年度から、伊達市では、市内の9小学校が、新潟県見附市における「移動教室」に取り組んできたこと。学校を単位として子どもたちを一時的に県外で過ごさせる「保養」の取り組みとして注目される。しかし、「保養」の取り組みは、主にNPOなど民間の団体が担っており、伊達市のような取り組みはなかなか広がっていない。

以上から浮かびあがる問いがある。なぜ、日本の教育界は学校による集団避難や「保養」の取り組みに大きく踏み出せないのか。東日本大震災・原発災害後に教育界で出されてきた450件の資料を収集・整理してきたことをふまえ、今後の教育界の課題を指摘したい。

第1に、「子どものためにいかなる判断が必要か」をめぐって教職員と保護者は協議ができるし、協議の結果を行動に移すことができる。このことに確信をもつこと。

第2に、「子どもは自然の中でこそそのびのび育つ」ことが教育現場で確認されてきたことをふまえ、それを思想として確立し諸提言の基礎にすること。

第3に、学校集団避難に関しては、財政措置が可能であることについて認識を深めること。2011年度以降、双葉町では、住民が埼玉県加須市に集団避難したことに伴い、同町の公立小中教員を、加須市の公立小中に勤務させてきた。義務教育標準法の震災対応運用により、福島の教職員を県外で勤務させることは可能だ。

第4に、いま改めて必要とされている取り組みについて提言を行い、その具体化に立場をこえて力を尽くす必要があること。

日韓合同授業研究会では、原発災害と子どもの問題について、この間にずっと調査と報告と交流を重ねてきた。その果たす役割はいよいよ大きくなっていると思う。

【文献】大森直樹・渡辺雅之・新井正剛・倉持伸江・河合正雄編『資料集 東日本大震災と教育界一法規・提言・記録・声』(明石書店、2013年)



福島朝鮮初中級学校校庭のビニールシート

人間が制御しきれない核技術による原発が

何故拡大し続けるのか、歴史的経過と現在への疑問

川辺

はじめに

昨年、会報に「世界史における日本の立ち位置、そしてフクシマの問いかけるもの」という文を載せてもらった。あの時点での、自分なりの理解をまとめてみたものだった。夏の交流会のテーマは、「原爆から原発まで、苦痛の歴史に向きあう教育」で、真っ直ぐに歴史と現在に向きあった交流会であった。

一方、日本は安倍政権のもと、フクシマの事故はほんの小さな部分になって、経済の論理で動いていった。東京電力も企業としての経営判断が基準となって柏崎・刈羽の発電所の再稼働を申請した。オリンピック招致では、福島第一原発は「コントロールされている」と、安倍首相は、世界に発した。野田前首相の「収束した」というのも驚いたが、これも又ビックリ、「いいんですか」と思った。その後、消費税率引き上げが決まり、国家安全保障会議が作られ、大反対の声が高まる中、特定秘密保護法案を国会通過させ、沖縄知事に辺野古移転を認めさせ、年末には靖国神社に内閣総理大臣として参拝した。新年早々、トルコ首相を迎えて、原子力協定を進め、公明党党首は、インドで、地下鉄に続いてと、原発輸出を進めていた。NHK・BS世界のドキュメンタリー(12/19.BS1)の「原発は今」という番組の中で、経済成長を求めるアフリカ諸国でも、反対している人々もいる一方、原発導入が切り札のように扱われていた。日本も、高度成長期、多くの公害が生まれ、苦しみが今も続いているが、放射能汚染はその比ではない。安倍自民党政権は、福島の事故も収束していないなか、原子力発電を「基盤となる重要なベース電源」として、日本のエネルギー政策の柱にするとする基本計画案を急遽、示している。短期的に効率的、経済的に有利、ということで、人間が制御しきれない核物質を、経験に学ばず、国民の不安を置き去りにして進めることが、正しい科学技術の利用には思えない。しかも、日本のみならず、これまでの経験や科学者の責任ある声を無視して、冷戦の軍拡競争の継続のように、敵に勝つため、市場を拡大するために世界が動いている。つい最近知ったことだが、2007年に原型ができ、アメリカを中心とした「核エネルギーのための国際的枠組みの協同体」(IFNEC)という組織は、参加国・オブザーバー合わせて60数カ国が参加して動いている。

世界は、経済成長のため、捨て場のない放射性物質を何万年も貯め続け、事故が起きたら住めなくなり、原発を安全に運転するだけでも被爆労働が欠かせないものを、日米とか、ヨーロッパ諸国だけでなく、アジア・アフリカ諸国にも広げていく組織ができてきているのだ。初めは参加していなかったドイツも今は参加しているようだ。財政赤字どころではない、とんでもない負の遺産を、将来世代に残して構わないと世界は思っているのだろうか。倫理や道徳はどこにあるのだろうか。

そんな核と人類との関係が、どう生まれ、どんな経過をたどってきたか、見ておきたい。

1、 原爆投下それぞれの思い

一被爆の恐れと不安・アメリカの正義・アジアの歓呼・科学者の後悔

「怒りふるふ 身をなげかけおほうとも 原子雲 子をかばいがたし」

母性愛の歌人といわれる五島美代子の短歌として紹介され知った。最初の被爆国日本の母としての行き場のない怒り・無力感が率直に表現されていると思う。また、栗原貞子は沖縄上陸戦のさなか、ガマの中での命の誕生を歌った「生ましめんかな、己が命捨てつとも」で知っていたが、今回、「ヒロシマというとき」の詩があることを知った。

「～<ヒロシマ>といえば <ああヒロシマ>と やさしいこたえがかえって来るためにはわたしたちは わたしたちの汚れた手を きよめなければならない」と、その詩は結ばれている。日本人、広島・長崎の被害と苦しみを語るだけでは共感を得られない、声が届かない世界の現実を突きつけている。

原爆投下の背景に何があったのか。アメリカは何故、あの時に未知の核兵器を使ったのかを、次に探してみたい。

イ、原爆投下の背景と報道管制—アメリカの「正義」

第1次世界大戦で敗北し経済不況にあえぐドイツを復興させようと、ナチス・ヒトラーは、ユダヤ人に対する差別意識を利用して、選挙で多数派となり政権についた。ヴェルサイユ体制という当時の国際秩序を破り、軍備拡大、戦争を始めた。そのナチスと戦うアメリカに科学者が亡命、核兵器の開発に協力した。ドイツが降伏した後も日本は降伏をみとめず、戦争が長引くなか、広島に一つ目が投下され、頼りにしていたソ連も参戦、長崎にプルトニウム爆弾が投下された。その後、「ポツダム宣言」を受諾して、連合国に降伏した。何故、戦争が長引いたのか、日本側は、戦後の国体・天皇制への不安で決断できない。連合国側の米ソは、戦後体制への駆け引き・冷戦（アメリカにすれば、ドイツ・ナチ、日本・軍国主義を敗北させて、次なる相手は社会主義・ソヴィエト連邦との戦いがある。ソ連からすればドイツと真正面から戦い・莫大な人命を失っている。やっと手にしたソ連邦を絶対守り抜くのだとの思いは強い）が開始。アメリカの原爆投下の理由は、公式には、早く戦争に勝利して自国の兵士の犠牲者を減らすためといわれている。しかし、日本の敗北は明らかで、原爆を投下するまでもなかった。むしろ、次なる冷戦を意識しての新たな強力な兵器を開発・顕示することにあった。長崎のプルトニウム爆弾こそ次なる兵器であり、それを完成させる工程表が投下時期を決めたという。アメリカからすれば、広島・長崎は、新たな兵器の実験場であり、データ収集こそが重要な仕事であった、政治的にいえば、軍国日本を解体し、アメリカにとって、無害で、冷戦に役に立つ日本にすることが期待された。アメリカに好意を持ち、協力させるには、アメリカのイメージは進歩的で豊かでなければならない。原爆投下、沖縄戦、空襲による被害は隠しておきたい場面である。広島・長崎が投下場所になったのも、幹線・大動脈に遠く、人の目に付かない場所、海に近く台風があれば放射能が押し流されてしまうところ、というような条件で選ばれたという。（投下の時期・場所の選定の解釈は、詩人アーサー・ビナード講演による）最終的には、当日の気象条件などで絞られていったという。原爆投下については報道管制が敷かれ、国民が広く知るようになるのは、7年後の1952年の「アサヒグラフ」の特集号であった。「原水禁署名運動の誕生 東京・杉並の住民パワーと水脈」（丸浜江里子）には、次のように記述されている。

「～朝日新聞社が発行していた雑誌「アサヒグラフ」（編集長・飯沢匡）1952年8月6日号の「特集 原爆被害の初公開」は全国に衝撃を与えた。被爆者の姿を如実に示す写真の公開をめぐる編集部で激論が交わされたが、発行を決断したのは編集長の飯沢匡だった。写真の多くは被爆直後に広島入りした朝日新聞社所属のカメラマン松本栄一と宮武甫が撮影したものである。占領中、そのプリントはGHQに没収され、フィルムは没収を命じられたが、二人は密かに一部を保管していた。特集号は発売と同時に売り切れ、多色刷りの表紙を単色刷りして緊急増刷された。

それでも、約一ヶ月間は、読者の需要に追いつくことができなかつたほど売れたという。～」

この間、原爆投下の真相をいち早く知らせたのは、広島出身の画家丸木位里と妻であり画家の丸木俊である。二人は、1945年8月、原爆投下直後の広島に入り、1950年、「原爆の図」第1部“幽霊”を描き、1972年、第14部“からす”を完成。その間、日本各地、世界各国で「原爆の図展」を開催した。また、1950年、絵本「ピカドン」を発行したが占領国アメリカによって発売を禁止され、原画を没収されたが、ミニコミ誌「ろばのみみ」の別冊という形で刊行され、のちに復刻された。1950年には、朝鮮戦争が始まり、原爆が使われるのではないかという恐れを持ちながら、より多くの人に知って貰いたいと絵本を描いたといわれている。(復刻版解説 上 笙一郎)

1967年開館の「原爆の図丸木美術館」は、今夏の交流会の見学地である。

日本は、敗戦・占領下、厳しい報道管制の下に戦後を生きた。そこでも、現実をしっかりと伝えたい、思いを伝えたいと思う人々により、短歌・詩、絵画・写真として記録されてきた。

冷戦の始まりと共に核開発競争が展開、核実験(約50年で2379回)が繰り返された。アメリカは2004年までにビキニ環礁で67回の実験を実施。「地球被爆」を繰り返した。1954年、マグロ延縄漁船第五福竜丸が被爆、久保山愛吉さんが放射能症で亡くなった。第五福竜丸以外にも放射能汚染漁船は856隻に達した。多くの住民も被爆、移転を余儀なくされた。その怒りの中で、杉並の主婦達を主力とした「原水爆反対署名運動」が行われ、3200万にも及ぶ署名が集まった。その記録を詳細にまとめたのが先に紹介した丸浜の本である。その運動の盛り上がりを受けて、「第一回原水爆禁止世界大会」が広島で開かれ今日まで続いている。日本学術会議は、原子力の平和利用には、自主・民主・公開の3原則の立場を取ることを決定。政府の態度を非難し、核兵器研究の拒否、原子力にあたって3原則の順守と水爆実験の停止を声明した。1955年、政府は、アメリカとの交換公文で、アメリカ側の責任を問わない形で漁業補償として慰謝料を受け取り終止符がうたれた。

ロ、アジアから見た日本—「汚れた手」

原爆投下は、アジア各地では、歓呼の声が上がった。アジアにとって「大東亜共栄圏」という虚像をふりまかれたが、日本の実像は、資源確保のための侵略者であった。栄えていた地域も貧しくさせられ、日本兵も最後は飢餓にさらされ故郷に帰ることができぬ者も多かった。アジア太平洋戦争の死者は約2000万人。第二次世界大戦全体の死者は約6000万人。

ハ、科学者の後悔

原爆は、ナチス・ドイツと戦うため、アメリカに協力しようとしたユダヤ系物理学者・オッペンハイマーが中心となりマンハッタン計画がたてられ、開発、3つの原爆が作られた。1つ目の実験がニュー・メキシコで終わったとき、彼は、「われは<死>なり、世界の破壊者なり」と語ったという。あるべき科学者像を裏切ってしまったこと、このとき覚ったのだろうか、と池内 了は、「禁断の科学 軍事・遺伝子・コンピューター」(NHK 知るを楽しむ)で書いている。

2. 冷戦の進行と「原子力の平和利用」という誘導

日本を単独占領したアメリカは、原爆の被害について報道管制を敷くと共に、原爆の破壊力と放射能の影響・データを熱心に収集、医療活動は一切なかった。それが、広島を街を見下ろす比治山にできたABCC(原爆障害調査委員会)の目的であった。

1948年、冷戦の相手・ソ連がプルトニウム生産炉の運転を始め、1949年には、カザフスタンで原爆実験に成功。この年、中華人民共和国が成立。1950～1953年、朝鮮戦争が戦われた。1953年、米大統領アイゼンハワーが国連総会で、原子力平和利用推進の「平和のための原子力」を演説。1954年、ソ連、世界初の原子力発電所の運転開始。アメリカ、原子力潜水艦進水。1956年、イギリス、原子力発電所運転開始。日本に原子力委員会（委員長は正力松太郎、読売新聞社・日本テレビ社主、衆議院議員）が設けられる。1957年、アメリカ、原子力発電所運転開始。・・・1966年、東海原子力発電所運転開始。1970年、敦賀1号機で発電した電気が大阪の万博会場に送られる。

こうして、核は兵器・軍事技術のみでなく転用可能な平和の技術として原子力発電所が各地に建設されてゆく。現在、日本に50基、世界では約430基が置かれている。

日本に対しては、日本人の被爆感情を逆手にとって、だからこそ原子力の平和利用を強く期待するように心理作戦がとられた。日比谷公園を皮切りに全国の主要都市10カ所を巡回する「原子力平和利用博覧会」を開催、地方自治体、学者、被爆者を巻き込んで宣伝した。政治家としては、中曽根康弘が、導入に熱心で、原子力発電によって核燃料廃棄物として発生するプルトニウムは原爆や水爆の核兵器に転用可能であることもあって原子力発電にこだわり、高速増殖炉を中心としたプルトニウム核燃料サイクルをあくまでも維持しようとしてきた。1955年、経済連は、「原子力平和利用懇談会」を設置、財界が原子力に進出、日米原子力協定調印。協定は原子科学者の意向を聞くことなく、外務省が独断で締結した。アメリカは濃縮ウランを核燃料に使用する原子炉を売り込み、日本をアメリカの原子力市場に取り込み確保することにあつた。アメリカから原子力に関する秘密の順守が求められた。

さらに、地球温暖化が深刻になると、運転中のみをさして、石炭・石油に比べて排気ガスのないクリーンなエネルギーとして、さかんに宣伝された。更に、安価でもあると強く主張されている。原発のリスクをスリーマイル島やチェルノブイリの原発事故をあげ指摘する科学者はいたが、政・財・官・学・メディアは「原子力村」を、「安全神話」を作って、耳を傾けることはなかった。過疎地域に多額の交付金を渡すことで、住民の反対運動は押さえつけられてきた。それは、本国アメリカに習ってやってきたのだ。最近の公文書公開で明らかにされた研究によると、アイゼンハワー政権下での放射線被ばく防護行政は、現在の福島事故対応そのものである。「～第一に・・・公衆の場合は、・・・むしろ交通事故のリスク、あるいは産業廃棄物からの汚染リスクと比較するのがよい」と勧告。第二に、議会内の核軍拡・原子力開発の推進派と手を結んで公聴会を開催して推進派の科学者を総動員し、放射性降下物批判を抑え込むことである。第三に、学術機関の権威を使って、放射能不安が根拠のないものであるという評価を定着させること、と特徴がまとめられるものであった。・・・このように人体への放射線の影響を過小評価して国民に説明する政策は貫かれた。50年代、政府が一貫して核兵器の増強を図り、核実験を実行していく一方で、国民は、核攻撃に対して「伏せて隠れる」ことをしたり、核シェルターを自ら設置することによって生き残り、国家の復旧に積極的にかかわることを期待される存在であった。・・・政府にとっての国民は終始一貫して心理作戦の対象でしかなかった。」（「封印されたヒロシマ・ナガサキ 米核実験と民間防衛計画」高橋博子）

3、おわりに―「原子核反応」とは？「強い日本」って？

もともと、相手を殺す兵器の原水爆と実験、そのエネルギーを転用する原子力発電所の運転と事故による放射線被爆の研究は進んでいないことが、今回の福島事故においても、基準値が二転

三転していることでも明らかである。殺傷能力と利益の確保のみで、生活する人、働く人の健康はこの次三の次で、危険は秘密にされてきた。もともと、原子力は、これまでの科学技術とは次元の異なるものであることを意識する必要があると思う。長くなるが先ほどの池内 了の冊子より「原子核反応の特異性」についての記述を引用する。

「～地球上のすべての営みは、原子が結合したり解離したりする反応で支えられている。これを「化学反応」と呼ぶ。人間が生きているということ（摂氏36度）、火によって水を温めて（摂氏100度）料理したり、コークスを燃やして鉍石を溶かし鉄や銅を取り出す作業（摂氏2000度）など、それぞれ温度は異なるが、これらすべては化学反応のエネルギーを利用している。人類が初めて火を手にしたのは約50万年前のことで、人類史上初のハイテク革命と呼べるかもしれない。

原子の中心部には原子核があり、その周囲に電子の雲をまとっていることがわかったのは1910年代であった。原子核の大きさは10兆分の1センチで、原子の大きさの10万分の1でしかない。原子核を1個の原子にたとえると、原子核は、1ミリの砂粒ほどの大きさに対応する。しかし、そこに原子の質量のほとんどが詰まっている。1センチ立方のサイコロに原子を詰め込むと1グラムにしかならないが、原子核だけを詰め込むと1000兆倍の10億トンにもなる。原子核が分裂したり（「核分裂」）くっついたり（「核融合」）するのが「原子核反応」で、その際に放出されるのが「原子力エネルギー」である。それを温度に換算するとおよそ2000万度に対応する。これが太陽の中心温度であり、化学反応による温度の1万倍以上もの大きさである・・・このように比べてみると、原子核反応の特異性がよくわかるだろう。化学反応の世界である地上に、原子核反応による**太陽の火**を燃やそうとしているのが原発であり核兵器なのだ。これらの間に1万倍以上のエネルギーギャップがあること、それを化学反応の技術で操作しようとしていること、これが原子力の危険性の本質なのである。～」

ユダヤ民族を強制収容所に送り、毒ガスにより効率的に殺すという悪魔の仕業までするナチス・ヒトラーに対抗し、より効率的に瞬時に大量に人と社会を抹殺するために開発された核技術は、地球にはそぐわない。人間社会の対立の解決にも、快適な生活に必要なエネルギーにもそぐわない。歴史ある地球上で、仲良く暮らすための知恵は、基本的な**科学**への理解であり、共に地球上で生きてきた**相手**への理解であろう。今、核兵器と原子力発電から手を切ることの決断を、日本政府が、世界の国々が決断することが大切だと思う。その意味で、福島事故に学び、哲学者の意見を聞き、2020年の脱原発を決断したドイツ政府に敬意をもつ。

戦前の日本の行為で苦しんだ人の声に耳を傾けず、歴史に学んで作られた憲法の原則を疎んじ、「誇りある強い日本を取り戻す」という安部首相の政治的主張はどんな意図があるのだろうか。歴史を知らず、一人よがりの懐旧の念で、対立を深めている。国民に、見ざる、聞かざる、言わざるを強要しては、世界で生きる力、活力は生まれえないと思う。国民に知らせない秘密を増やし、教育統制を強化しようとしている。国家の指示の下、忠誠心をもって働き、戦う国民・兵士を育てるつもりなのだろうか。

今の時代の、人として、社会としての危機を見つめ、政治の言葉に、宣伝の意図に注意深くあ



「平和のための原子力」を掲げた
アメリカ合衆国の切手 1955年発行

りたいと思う。「逆三猿」で未来に強い、共生日本を創造したいものだ。(敬省略)
(2014. 1. 12)

「恨」は、深まるばかり—沖縄戦での韓国人被害者の聞き取り調査から—

雁部

はじめに

「沖縄戦での朝鮮人の被害の実態を明らかにしたい」と、Y (日本) さんから提案があったのは、第15回沖縄交流会(2009年)でのことでした。Yさんは2010年から半年を沖縄で生活し、現地での調査を続けてきました。2010年6月、主に沖縄に住む人々の「沖縄戦の記憶」を記録するために、かなり大がかりな調査をしました。また、2011~13年に3回にわたって韓国で聞き取り調査をしてきました。ここでは、その3回目の調査を報告します。

1. 聞き取り調査計画

聞き取りは、2013年11月29日(金)~12月2日(月)で、ソウルと慶山で行いました。敗戦後68年を経ているので、沖縄戦から無事帰って来た人の多くは亡くなられたり、高齢になられていたりして、聞き取りが難しくなっています。遺族の方たちも高齢になり、日本人に話したくないという人も多いのです。そのような中で、Yさんの人脈でH(韓国)さん、慶山新聞社理事のC(韓国)さん、A(韓国)さん、N(韓国)さんたちの多大な協力により3件10人の聞き書きが実現しました。Yさんがインタビューをし、H(日本)さんが名前の確認や記録をとり、雁部はビデオ撮影と音声の文字起しを担当しました。通訳は、N(韓国)さんです。

2. 父親の顔も知らず・・・残された子どもの暮らしと想いは

2013年11月30日、「日帝被害者共済組合」の6人の女性たちに、ソウル市の新村にある食堂「ヒョンジェカルビ」でお話を聞きました。その中の三人のお話です。
Lさん； 父は、1941年、結婚1年後(当時母はLさんを妊娠中)、徴用で海軍103部隊へ。(身上書には)呉の建築部で働いたと書いてありました。賞状をもらって、休暇をもらって帰ってきました。(Lさん3か月)。おじいさんが村長だったので、もう日本に行かなくても良かったのですが、日本人が行かなければ殺すなどと脅すので、怖くて日本へ行くようになったと聞きました。1944年国に帰ってくるようになって、同じ町からお父さんを含めて仲間の人3人がいたのですが、その2人は先に船に乗ったのですが、お父さんがトイレに行っていたら、乗るはずの船に乗り遅れ、つぎの船に乗ったが、前の船に乗った仲間の証言では、後ろからついてきた船が沈んでしまったということでした。初めは、おじいさん、おばあさんが衝撃を受けるので何も言わないでいましたが、問い詰められて言う事になりました。父は三男でしたが、祖母はショックで亡くなり、祖父はそれでも帰りを待っていました。私の場合は、お父さんの顔も知らず、自分の母は実家の考えで再婚し、自分は祖父の家に残って暮らしました。



1992年ごろから遺族会の仕事を始めました。とても悲惨なことです。過去の問題を解決しないと日韓の未来は開けないと

私は思います。日本政府は、1965年の日韓条約のときのお金で補償は終わったと言いますが、そのお金は企業とか道路に使われ、遺族に渡ったわけではないです。

父は仕事が辛い、家畜扱いだ、食べ物が少ないと両親に話していました。賃金ももらえなかったのです。5828円の供託金が残っていると厚生省の資料にあります。日本政府は家族に支払うべきだ。いま、その運動をしている。供託金としてあるお金が4兆円と聞いています。韓国の委員会では当時の1円あたり2000ウォンで払っている。それは、今のお金にするとすごく少ないですよ。ですからそのお金はもらわなかったのですが、もらって欲しいというので、今年の春にももらいました。海外で亡くなった人には200万円ぐらい払っているが、国内で亡くなった人には出していません。日本も韓国も過去を清算しなければならないです。父は靖国神社に、祀られています。戦争を起こした戦犯と一緒に祀られる理由がないです。外して欲しいという運動もしているのに、それもかなっていません。

何年か前に日本に行った時、お父さんの位牌を返して欲しいと泣き叫んだのですが、その人たちも自分の前ではごめんなさい、というのですが、今まで返してもらっていません。

遺族を代表して日本政府に言いたいのは、謝罪し補償しなければならないと思います。それが日本も韓国も生きる道だと思います。遺族はみな70歳を越えて80代になっています。

Kさん； 私はKです。父は、母が自分を妊娠中、3カ月だったのですが、お父さんが日本に動員されました。隠れに隠れたのですが、連れていかれました。行ってみたらすごく大変で、国の力がないからだと思って、早く祖国に帰りたいと思ったようです。

父が動員された所は、南洋群島と聞きました。船に乗った時、爆弾で船が沈んだそうです。トラック島で船が沈んで亡くなりました。海に沈んでしまったので、何も無い状態ですよ。それで70年も経ってしまいましたけど。

私が生まれて10ヵ月後に戦死の知らせがあり、それを見た母は精神的に異常をきたし、狂ってしまいました。病院にも行けず60歳で亡くなりました。今考えると、家庭の柱である父親を動員され亡くなって、お母さんもおかしくなって、その下で生きてきた自分の人生もすごく辛かったです。同じ町の人からも親がなく母親は狂っているといわれ辛かったです。自分は父を知りません。写真が1枚、軍服を着た写真があり、「お父さん、お父さん」と呼びました。教育も受けられず辛かったです。(涙)母の愛も受けられず。その後、トラック島に行って花を捧げ、お父さんと呼びました。両国政府は、協力して、こんな辛い思いをした遺族に配慮して欲しいです。

Cさん； 私はCです。父は、結婚3ヵ月後に妻の妊娠も知らず南洋群島に強制動員されました。ですから私は写真だけでしか父を知りません。南洋群島に行ったと聞いていましたが、亡くなった記録には、フィリピンのトンピテア島で亡くなったと記録されています。祖父はその知らせを聞いて倒れ、8歳のとき、母は再婚し、その後お祖母さんも亡くなって、自分は兄弟もなくおじとおばと淋しく暮らしました。

数年前フィリピンの亡くなったという現場に行ってきました。戦争当時の修羅場がそのまま残っていて、動員して、戦場に駆り出したことに怒りを感じました。赤い岩があって、それを説明してくれる人が、そこで食べ物がなくて死んだ人を食べたりしたこともあったのだけれど、生き残った人も結局飛び降りて死んだということで、その死んだ人の血が今でも残っているという説明でした。

目から血が出るような苦勞をしてきました。日本が罪もない人を連れて行き、食べさせず、死ぬような事をしたら、昔の人がしたことだとしても、日本政府は謝らなければならない。私たちが追悼の行事をすると決まって空は曇り、雨が降ったりします。自分がどこで亡くなったかもわからない遺族を見ると、どれだけ悲しいことでしょうか。遺骨と言っても、本人のものではなく、土とかなのに、今も清算しないのはよくない。とくに安倍総理のことばに怒りを感じる。自

分の先祖がそういう事をしたと知っているのに、こういう事が言えるのは、私には悔しくて、怒りを感じます。記録に残っているお金をもらいたいです。70 過ぎた今、死ぬ前に父の命の補償をもらいたい。家の血筋が絶えました。

L さん； 時効は国家間ではあっても、個人には時効はなく、請求権はあります。遺族の力になるように、日本から来ていただいて、ありがたいと思います。遺族への補償をしっかりとしてほしい。遺族の年齢が高いので、急いでほしいです。近い国なのだから。わたしたちは許したいのですよ。許せるように、日本政府が謝罪し補償してほしい。

3. 慶山での聞き取り

最も多かった慶尚北道からの沖縄への徴用

沖縄交流会の時、私たちは沖縄に住む金洙燮さんから貴重な資料をいただきました。沖縄が本土復帰した年に行われた『第二次大戦時沖縄朝鮮人 強制連行虐殺真相調査団報告書』です。

また、朴壽南（パクスナム）編による『アリランの歌—オキナワからの証言—』（1991 年発行、青木書店）、ドキュメンタリー『アリランの歌—オキナワからの証言—』には、慶尚北道に住む韓国人の証言も多く残されています。

沖縄への朝鮮人徴用は、これまで聞き取りをした奈良県や東京都からもありましたが、最も多かったのは慶尚北道でした。特に、慶尚北道の人々が、大邱に集められ、釜山から船で沖縄に送られた事実を、証言として聞くことができたかと、以前から願っていました。今回、その願いがかないません。

今回お話を伺った L さんのお連れ合いの J さんは、通称「球八八八六」に所属していました。

朝鮮人「軍夫」部隊・特設水上勤務隊の編成について（『沖縄方面陸軍作戦』の「第三十二軍戦闘序列および指揮下部隊一覧表」による）

通称号	部隊（指揮官）	編入日	所在地（摘要）
球八八八四	特設水上勤務第百一中隊（長二木寛行中尉）	昭 19. 7. 13	（宮）朝鮮大邱で編成、昭 19. 8. 12 上陸
健軍八八八五	特設水上勤務第百二中隊（長田中良夫中尉）	昭 19. 7. 13	（本）朝鮮大邱で編成、19. 8. 21 主力は徳之島上陸、19. 12. 25 （本）上陸、20. 6. 25 第十六方面軍に編入
球八八八六	特設水上勤務第百三中隊（長市川武雄中尉）	昭 19. 7. 13	（本）朝鮮大邱で編成、19. 8. 10 上陸
球八八八七	特設水上勤務第百四中队（長 中山忠中尉）	昭 19. 7. 13	（本）朝鮮大邱で編成、19. 8. 10 上陸

慶良間列島には朝鮮慶尚北道の大邱一帯から沖縄へ強制連行された約 6000 人（特設水上勤務第 101. 102. 103. 104 の四個中隊で、一個中隊につき約 1. 500 人）のうち、半数の約 3. 000 人が送りこまれた。
『第二次大戦時沖縄朝鮮人 強制連行虐殺真相調査団報告書』 p 20

慶尚北道 慶山 慰霊碑の前で（2013 年 12 月 1 日）

ソウルからの高速道路を、慶山で降りた近くの小高い丘の上に 40 人の名が刻まれた慰霊碑があります。此処で慶山新聞社 C さん、太平洋戦争犠牲者遺族会名誉会長 K さん、大韓老人会大邱市連合会事務所長 K さんにお会いしました。

当時慶山郡から強制動員されたのは、306 人といわれていますが、その中で死亡が確認されたのが 40 人です。みんな軍属です。沖縄の「平和の礎」に一番始めに刻銘されているということでした。碑の前にりんご・柿・梨を供え、一人ひとり酒を捧げて拝礼しました。慰霊碑を建ててくださった方は、嶺南大学の権丙卓教授・帰国者が中心になり、国会議員・マスコミ界・経済界の人や沖縄の大学教授・学生なども加わって寄付を集めて建てたそうです。

慶山郡から 403 人が沖縄(慶良間諸島・阿嘉島・石垣島など)に動員され、251 人が帰国しました。その人たちで、太平洋同志会を組織したそうです。

慰霊碑のはじめの文章

英霊らよ 同志らよ なんと悲しく痛ましいことか 凜凜しい丈夫の 君たち
青春の姿 探すすべなく 此処に 言葉なく 戻ってきた 魂たちよ!
私たちの同胞は 古きより疆土に生きて 泉を掘り 畑を耕し 子々孫々 平和に暮して来たが
天運は 塞がれ 国を奪われた 民となり 日帝の馬蹄に踏みにじられ ついにやってきた魔手
落ちてくる砲火を 止めようもなく
牛馬のように 引かれて行った 君たちは
遠く離れた 南方の空の下 絶海の孤島で
弾よけとされた それぞれが抱いていた
価値ある人生の夢は 咲けない蕾となって落ち
熱帯叢林の 渡り鳥のえさとなって
主がない 南の海で よるべもなく
魂さまよい 恨めし四十年を 彷徨したが
今やようやく 夢にも忘れない
自分の故郷へ もどりきた
君たちの 尊い姓名を はっきりさせて石に刻む



L さん宅を訪問 (2013 年 12 月 1 日)

L さん (88 歳) の話 (夫の徐さんが徴用された)

昔は陰暦を使っていました。1944 年陰暦 5 月に赤紙がきました。5 日後の 28 日、夫は大邱の師範学校で 14 日間教育を受けることとなります。昔は師範学校の近くで家族が暮らしたこともあったのですが、家ではお母さんと目上の方たちが先に会いに行ったのですが、会ってきたお母さんが、あなたは (子どもが小さいから) 行かなくていいと言われた。行っても会うことはできないからともいわれました。大邱師範学校のそばに住んでいる人 (家族) の中には出産する人もいました。

1943 年、17 歳のとき、23 歳の夫と結婚。18 歳 (1944 年) の時出産しました。自分の兄が未婚で本来なら自分は兄が結婚した後に結婚すべきだったが、当時結婚しないと、挺身隊とか軍属として連れて行かれるという事があったので、行かされるのを恐れ早く結婚するようになりました。

農作業のための準備もしていたのに、それが出来ず、当時の日帝の政治は怖く、供出しなくてはならず、米もなく、麦も少しずつ食べるといった状態でした。神社参拝の後出発したのですが、泣きながら見送りました。

夫がないので畑仕事もできなかった。泣きながら男がする仕事をした。夫にどうしても会いたくて、子どもを背負って汽車に乗って会いに行った。当時は歩いて行くのが普通だったが、李の家族で志願兵に行った人がいて、そのため汽車の切符が手に入った。慶山から大邱まで行った

が会えなかった。門番が犬をけしかけて訪ねて来る人に噛み付けようとしていました。門番の日本人にいつ出発するかと聞いたら、14日後に顧母（コモ）駅に鉄道で行くから、そこで会えるかもしれないと聞いた。師範学校から鉄道駅へみんなが出発する瞬間、一度目を合わせた。慶山の駅では人も多く、汽車に乗ろうとする人を馬に乗った軍人が引き下ろし、何とか会おうとする人が多く、綱で囲うなどして、近づけなかった。会えないまま行ってしまい、手紙が一度も来なかったが、8月の秋夕（チュソク）に沖縄にいるというハガキが来ました。その葉書に住所があったから、葉書を36枚買って毎日毎日出しましたが、一度も返事がありませんでした。1年後に月給ということで1円ぐらいのお金が来ました。辛かったのは、言葉にできないのですが、戦後、捕虜になってハワイへ行った人もいるのですが、私の夫は沖縄の収容所にいたようです。ハワイに行った人はすぐ後帰ってきたのですが、夫は帰ってきません。

1946年1月28日、戻ってきました。戻ってくるまで、生死不明で占いをし、ご飯をあけて、水が出たら生きてするという占いなどもしました。前に戻ってきた人から戻ってくると聞きました。キムチをたくさん食べさせろといわれ、タラも用意して待ちました。慶山駅から歩いて帰ってきた。毛布のような軍服で、靴もまともなものではありませんでした。お金も持っていなかったです。夫は阿嘉島に行っていました。弾丸や米を運ぶ仕事をしていました。身長180センチで体格のいい人だったのに骨ばかりに痩せていました。

同じ慈仁面から7人行き、3人は現地で亡くなりました。嶺南大で帰った人々の話を聞いて作った冊子があります。その本を読むと様子がよくわかります。3人が自分のことを書き、大学院生が取材して本にしました。『慶良間列島』および徐さんの『口述記録』を、慶山新聞社のチェスンホさんからコピーを送ってくださり、現在会員が翻訳中)

帰国後は農業をし、慈仁農協の組合長もした。6年前に亡くなった。病院にいかにいかに健康でした。

もう昔のことだからもういいけど、今だったら役所とかに行つて抗議したと思います。松の油をとるようにいわれた。取れるような人をみな連れて行って働く人もいないのに、小さな子を抱えて、誰が育てるのか。抗議をした人もいました。米・麦・真鍮の食器・指輪・かんざしも供出した。当時はもう食べ物は全部供出されて、山へ行って草を刈って食べたり、おかゆにしたり、豆かすを食べたりしました。量も少なく大変でした。

妻さん：慶山郡から動員された人は、403名で、帰ってきた人は、251人。全部沖縄です。亡くなった人は、沖縄の「平和の礎」に書いてあるが、行方不明者が多く、その人の名前は書いてない。

娘のJさんの話

お父さんの具合が悪くなってから、私が代わりに書類を準備し供託金の290万ウォンもらいにいきました。父は震えながら「畜生、自分たちが苦勞したのに、その一息の価値にもならない。この金を当時の人たちの顔に叩きつけてから死にたい。死んでいった人たちの顔が目には浮かぶ。自分のこの気持ちを日本人に伝えたい。」と涙ぐみながら言っていました。同僚たちが地雷を踏んで亡くなった時の事が思い出され涙を流したが、もし自分が生きていく意味があるのだとしたら、この感情を日本人が分かるようにして、亡くなった人の遺族たちに、本当に苦勞して亡くなった事を10分の1でも伝えたい。それが生き残る一つの理由になるのだと言っていました。

お父さんが日本に行く機会があった時（実際には行けなかったが）健康でなかったのも、一人では無理で、娘の私がついて行こうとしました。日本に行きたい理由について父が話したことは、同僚の中で痛くて死んでいく人がいて、当時は、話の中でおしっこも分けて飲まない食べないというほど、分ける余裕がなかったそうです。その時、死んでいく同僚のために民家に行つて、食

べ物と水をください、と言ったら、お父さんは当時ひげが生えていて日本人に見えたのか、水とご飯をくれた。自分が死にそうだから水をちょっと飲んで、死んでいく仲間のところに持って行った。爆撃が激しい中だったから、動く危険だったが、同僚は動けなかったので無事だった。その仲間は死なずに生き延びた。このときの民家の人に会いたい。この時もらった水とご飯で何人かの人が生き残った。ぼんやりとだが、民家の位置が思い出せるような気がすると言っていました。

阿嘉島で、疲れて、ちょっと居眠りしてしまったら、亡くなったお父さんが夢に出てきた。伝統的なトゥルマキとか靴とか帽子姿だった。何もしゃべらないでちょっと立っていて、山から下に降りた。ここにいると死ぬから先祖様がこんなふうに分を導いてくれると思って山を降りた。その後、夜その山が爆撃され火の海になった。それで自分は助かった。ご先祖さまが助けてくれたと思う。沖縄での生活については、本にくわしく書いてあります。

沖縄にもう一度行きたいと言った理由のもう一つは、お父さんが作詞・作曲した歌「한 많은 강제연행(恨み多き強制連行)」があります。毎日口ずさんだり、書いては消したりしながら作りました。ある無名の歌手が録音して歌いました。その歌詞の中に自分が経験したとか感じたことを書いているのですが、歌の風景を沖縄に行って確認したいと言っていた。亡くなる直前まで詩も書いていて、「わが祖国」という詩集もあります。

Lさん (Jさん婦人) 日本の若い世代も働くだろうし、韓国の次の世代も働くでしょうけど、当時の日本に対する印象は、辛い事をさせて悪徳というか、印象は悪いです。その事は昔の事であったとしても、いまでも独島問題など日本人の心が変わっていないのが口惜しい。昔朝鮮人達をあんなにいじめて置いて、今なにかえらくて、またこんな風に喧嘩を売るように、領土問題の摩擦を起こしているのがくやしいです。北韓とは戦って分かれているけれども、それに比べても日本もよくない。

Kさん (遺族会) 日本人がみなそうではないが、最近右翼の態度が悪く、靖国神社とか新大久保でのヘイトスピーチが心配だ。市民同士が交流しなければならない。最近日本人が韓国に住んだり、韓国人が日本に住んだり、国境もないのに、「韓国に戻れ」「韓国人殺せ」など関東大震災のときと何が変わるのですか。このような事を学校でよく分かるように教えて欲しい。

金さん (老人会) 韓国人はいろいろ思います。安重根・尹奉吉の独立運動をして今のようになってきたのに、日本がいまの態度のままなら天罰があるんじゃないか。津波のときも韓国で募金をして送ったのに、このように日本が韓国を支配するような態度を変えないなら、私も独立運動の闘士になって戦いたいと思う。恨があります。70年間、父なしで暮らして来たのだ。ちょっと過激に言ったかも知れないが、安倍のように韓国を刺激すると、われわれは闘いたくなる。一緒によく生きて行こうとしなければならない。



慶山の薬膳料理の店で (2013年12月1日)

Kさん (太平洋戦争犠牲者遺族会名誉会長) 75歳

父は、九州に徴用に行つて、すぐ逃亡した。そして江原道の旌善(ジョンソン)に行つて隠れていた。旌善で警察に捕まり、浦項(ポハン)から船に乗つて日本へ送られた。自分が4歳のときで、6ヶ月で帰ると言っていた。逃亡者だったから北海道の石炭山に送られた。

6ヶ月で帰ると言ったが、以後連絡なく、遺骨もない。1945年解放されて、生きていないかもしれないし、死んだのなら遺骨が届くと思っていました。1973年に遺族会を創設しました。母が言うには、父がどこで死んだか、息子は知らなくてはならないではないかと言いました。母と二人だけなのですが、探さなくてはならないじゃないですか。だから私は1975年に日本に行きました。九州で遺骨の発掘をしながら、自分が遺族会の幹部なので個人的なことはできなかったのも、北海道の会社に手紙を書きました。動員された会社は今も残っていて、社長は代わっていた。お父さんの死亡年月日、死因、祀られているところを尋ねた。会社に尋ねると、遺骨は寺に預けたと言う。寺のお坊さんは5回も代わっていて記録を見ても、お父さんの事はなかった。母が亡くなる前に一人だけの子どもだから遺骨を探せといわれたが、いままでずっと調べても、その時そこに居た人の遺骨が何処にあるかわかりません。

遺族会長を14年間務めました。自分自身のことはできない。他の人の遺骨は戻すことができたりに、自分の父の遺骨を探すことはできませんでした。北海道にも行ったが、父の会社の30分の距離のところまで行ったが、自分の父のことを先にすることはできなかった。母は6年前に亡くなった。(涙)「恨」になるのは、母が亡くなる前に父の遺骨を見つけられなかったことだ。4歳の時動員されたので、父の顔も知らない。それも恨になっているが、九州の炭鉱から逃亡して来たときの写真が1枚だけあったが、母が墓と一緒に埋めて欲しいと言ったので、コピーをとって原本は母の墓に埋めた。自分が生きてる間に探せない胸が痛む。息子には頼めない。私が生きてる間に探したいのだが探せないのが、本当に悔しい。

もともと自分は日本人のイメージはよかった。国民学校1年生のとき、大邱にはたくさん日本人がいて、学校で一緒に勉強した。学校の先生が日本人だったのですが、朝鮮人は貧しかったので、先生は鉛筆や消しゴムをくれたし、家に招いてご飯を食べさせてくれました。だから、日本人に対するイメージは悪くなかったのです。今も、いい人は沢山いると思っています。だから、本心も言えるし、日本から来れば連絡を取り合っている。しかし幻滅したのは、私は何回も行っていますが、靖国神社でうるさいスピーカーの右翼、新大久保の「殺せ」という人がいるのが悲しい。一部の人だと思っているが、日本のイメージを悪くしている。

父の遺骨をずっと探しています。亡くなった会社のあった村に記録があり、肺炎で亡くなったということになっていて、亡くなった日にちも分かり、火葬の認定も分かったので、厚生省に行った。すると、厚生省に二千何百の遺骨があるという情報を得ました。地下にひどい状態であったので、3日間整理して、祐天寺にまつことにしました。韓国では沢山の人が待っているのに、何という事かと抗議をしました。そして、一旦遺骨を祐天寺に移すことにしました。その中にお父さんの遺骨は無かったのですが、位牌を作ってまつことにしたら、北海道の会社から、葬式に使ってくれと、3万円が届いた。祐天寺の遺骨で韓国に遺族がいる場合は韓国に戻ったのですが、遺族いないとか、北朝鮮にいる場合は、そのままになっています。遺骨が600柱くらい残っています。

Kさん（大韓老人会大邱市連合会事務所長）70歳

いろいろ役に立つお話をたくさん聞きました。父が生きていればちょうど100歳です。父は1945年3月26日に、沖縄で亡くなりました。アメリカの艦砲射撃によって爆死したのではないかと。戦争中で遺骨収拾ができていない。四、五十年前、遺骨が厚生省の地下にあると聞きました。その後母も兄も亡くなり、ひとりになった。苦勞して暮らしてきました。一人一人確認して分けるのは出来なくても、形式的でもいいから、これは誰の遺骨とていねいに扱ってくれたら、遺骨を受け取って母の横に埋めたい。私のように思っている人はたくさんいます。こういう事に先生方が関心を持ってくださったらこんなに嬉しいことはありません。33年間、公務員をして、その後大

邱の老人連合会の事務長を7年間しました。

1987年慰霊碑が立って、4月20日に慰霊祭をしている。進んで担ってきた方たちが、お年で活動できなくなったので、自分は総務、大邱支部長、いま慶山の会長をしている。遺族会の会長になって3.4年たっているのですが、いろんな話がありすぎて、責任とか負担、背負っている荷物が重く感じる。韓国も日本も昔と比べて豊かになった。補償をあげるか、あげないかではなく、両方が協力して遺族のことを考え、行動を起こせば遺族の心が溶けてその解決のはじまりになる。みんな「恨」を持っているが、「恨」を解くことができ、解決できると、日本嫌いを変えるきっかけになって、韓国と日本の二つの国家が一緒に行く道ではないかと思えます。

Kさん（太平洋戦争犠牲者遺族会名誉会長）

私が会長をしていた時、外務省の呼びかけで1年に15人ずつ日本に行って交流するのを、3年間したのですが、そのように未来志向的な人の交流が必要だ。外務省から費用も出してくれた。老人たちが来たら泊まれるような施設を用意してくれ、広島に行った時には、教師たちがバスを用意してくれて見学するなどそういう交流があったのですが、そのような両国の間にもう少し仲良くできるような事が必要だと思います。遺骨についての問題も、外務省と厚生省にいつも行って要求してきました。先ほど金会長もおっしゃったのですが、交渉に行った時に、いい一つの方法を言いました。それが、遺骨を見つけることはできないので、厚生省にある爪とか髪、それもなければ亡くなった所の土とかを、丁寧にこの人の遺物だとしてもらおうと、遺族の人たちの心が安らぐ、そういう事が必要ではないかということです。

4. まとめにかえて

今回の聞き書きも、遺族の方たちの口惜しさを身に染みて感じるものでした。「恨」というのは、単に恨むという事ではなく、「理」に反することへの、悲しみ、無念、痛みなのです。

ところが、今、安倍政権は、排他主義を煽り、「平和憲法」をも潰そうとしています。特に、韓国・朝鮮に対して戦後の補償など、なすべき事をなおざりしたまま、「日本を取りもどす」などと掲げるのは、恥ずかしいとしか言いようがありません。道徳的にも許されることはありません。

『「戦前」が「戦後」を喰らい尽くそうとしています』さねとうあきら先生の賀状の言葉です。本当にそうだと思います。

日韓合同授業研究会の韓国の人々との交流、「聞き取り」により戦争によってひとり一人の人生がどうであったのか、どのような苦しみや悲しみがもたらされたか、現在も政府がネグレクトしている事実を明らかにする事も、私たちの闘いの一つです。

東アジアの平和と人権を実現する取り組みを、子どもたちとの学習を通して、進めていきたいと強く思います。

許せない安倍首相の靖国参拝

聞き書きの文字起しが終わってすぐの12月26日、安倍首相は靖国神社の参拝と「首相談話」が発表されました。まさに今回聞き書きをしてきた韓国の人々の胸をえぐるものです。

靖国神社が、天皇のために亡くなった戦没者の霊を慰めるとともに、功績を顕彰する役目を持ちますが、韓国の人々は、強制的に「天皇の赤子」とされ、それゆえ靖国に祀られています。民族解放がされないまま、日本に拘束されているのです。Aさんが訴えているように「戦争を起こした戦犯と一緒に祀られる理由がないです。」という言葉の意味は、さらに重いのです。

1978年の14名のA級戦犯の合祀は、東京裁判を全面否定するための精神的政策であり、日本の過去の正義と正当性を訴える歴史認識を示すものです。これを、韓国の侵略された人々が許せるわけがありません。私たちも見たように、境内にある「遊就館」は、幕末維新から以後の日本の対外戦争すべてを対象とし、日本の戦争はすべて自存自衛のものであり、アジア解放の目標を

もった戦争であり、侵略戦争ではなかったと主張しているのです。

靖国から取り下げて欲しいという国の内外の遺族の切実な願いを無視しているのは、許されることではありません

本の紹介 「朝鮮王妃殺害と日本人」 金文子著

善元

私がこの本にこだわるには、大きな理由がある。

昨年2013年6月28日、日本の毎日新聞に「韓国の朴槿恵大統領は中国の習近平国家主席との昼食会で、初代韓国統監を務めた伊藤博文を暗殺した安重根を記念し、暗殺現場のハルビン駅に記念碑を設置するよう要請した。」朴大統領は「安重根は韓中両国民が尊敬する人物」と述べ、習主席は「記念碑設置に対し関係機関に検討するよう指示する」と述べた。この動きに安倍晋三首相はテレビ番組に出演し「伊藤博文は（日本人に）尊敬される偉大な人物だ。（日韓両国が）互いに尊重し合うべきだ」と述べた。発言の背景には、未だ日本人には伊藤博文は「尊敬される偉大な人物」という一面的な考え方が定着しているからである。



ではそのことを韓国の側から見たらどうか！「安重根の伊藤博文暗殺」で問題は「殺害の場所と会談目的」である。1909年10月26日、伊藤博文は、ロシア蔵相ココフツォフと満州・朝鮮問題について非公式に話し合うため、ハルビン駅に行った。この会談は実は中国の東北部（旧満州）分割をめぐる日露の会談が予定されていたのである。ではなぜ安部首相は「尊敬される偉大な人物」と述べるのか、それは日本とアジアの歴史認識が深刻なまでに異なっている。日本は東アジアの視点で歴史を直視していない、歴史の事実と未だ向き合えないのである。

この本の前に優れた著書、角田房子『閔妃暗殺』（1988年）がある。精力的な資料調査と関係者への聞き取り調査に基づき、歴史的残虐行為が当時の朝鮮公使・三浦梧楼を首謀者とする日本兵の犯行であることを明らかにした。今回の金文子さんにはさらに分析を深め、従来閔妃と大院君〔高宗の配偶者：閔妃の義父〕の対立で、暗殺は日本軍と大院君の共謀説が俗論として存在したが、「大院君が三浦梧楼と共謀したという証拠は何ひとつない。従来証拠とされたものは、すべて捏造されたものである」（359頁）と明確に断定する。

また「閔妃暗殺」については分析を深め、「大院君は、閔妃に対する殺人作戦を夜明けまえに秘密裏に決行・処理しようとした三浦たちの行動を遅延・破綻させるよう動き、この事件を衆人の目に晒される時刻まで引き延ばす功績があった」と指摘している（305-310頁）。私が注目したのは「筆者（金文子）は、三浦梧楼は大本営から与えられた使命を遂行しようとしたものと考

Pa

える（349－350頁）」である。

伊藤博文はよく武人派の山形有朋と比較される。文民派の伊藤はソフトな朝鮮統治を行ったと言われ、今でもそう述べる学者もいる。しかし金さんの仕事はこれらの考えを歴史的資料から排除している。東学農民運動の弾圧も、「閔妃暗殺」も伊藤の承認の上の動向である。

歴史は「多様な考えを認める」ことではある。しかし問題はそれ以前である。考えの相違ではなく「事実を明らかにしてこそ」相互の違い、多様性を認めることができる。またこの本で事件当時の若き朝鮮国京城領事館・内田定槌の存在を知った。あの事件の中で官吏としての限界はあるが、冷静にこのことを本国に伝えているのである。まさに目から鱗であった。

著作名 「朝鮮王妃殺害と日本人」 著者名 金文字 出版社 高文研
発行日 2009年2月 価格 2800円

万葉集を読み返して

吉川 博子

最近、山上憶良の歌を読んだ。

しろがねもくがねも玉も何せむに

まされる宝 子にしかめやも

で知られる万葉集の代表的な歌人である。金銀や宝石も何になるだろうか。それに勝る宝は子どもではないだろうか、という意味である。こんな歌もある。

憶良らは今はまからむ子泣くらむ

その彼の母も我を待つらむぞ

宴席を辞去するときの歌。この憶良はこのあたりで失礼いたします。今ごろ家では子どもが泣いているでしょうし、その母親も私のことを首を長くして待っているでしょうから。もっとも、この歌は山上憶良71歳の作で、とうてい泣くような子がいる年齢とも思えないから、おそらくは同席する家庭持ちの若い人たちの代弁をしたのだらうと言われている。貧窮問答歌という長歌も農民の悲惨な生活を詠んでいるが、奈良時代の庶民の悲惨な生活をうかがわせる絶好の資料として引用されている。

憶良は子どもが大事、家庭が大事、人が大事ということを真正面から取り上げてそれをストレートに詠んでいる。にもかかわらずユーモアもあり、読む人の心を捉えて離さない。音の響きも滑らかで技巧を感じさせない技巧を忍ばせてもいる。日本文学史上、類まれな歌人と言える。

この人、40歳頃までは無名の人だった。家柄も官職も無く、知名度はゼロ。それが遣唐使の全権大使を務めた栗田真人に抜擢され、唐に行ってきたから、官職の道を歩み始めた。漢籍の知識が買われたのであろう。全くの努力の人だったにちがいない。そして彼が詠んだほとんどの歌は60代から70代にかけての10年間ほどのものである。憶良は幼いころ、百濟から亡命してき

た貴族の息子だったと考えている学者もいる。彼の、万葉集中最も若い時の歌は、彼の兄貴分にあたると思われる渡来系の官人と一緒に旅した時の歌である。

果たして40歳になるまで山上憶良はどこでどう生きていたのだろうか？そして栗田氏との出会いはどのようなものだったのか？興味は尽きない。

日韓合同授業研究会交流会 Q&A

藤田

「5年がんばろう。」と始めて始めた日韓合同授業研究会も、今度の交流会で20回目を迎えます。戦後50年の8月15日をソウルで迎えた日が昨日のようです。まだ交流会に参加したことがない方のために、交流会をQ&Aで紹介します。

Q 日韓合同授業研究会ってどんな会？

A 日韓の小学校から大学や専門学校などの教育に関わるものと市民や学生など、誰でも参加できる市民団体です。全国に会員がいます。授業を中心とした交流を通して「平和と人権」が大切にされる社会を目指して活動しています。

Q どんな活動をしているの？

A 毎年8月に日韓交互に行われる交流会が活動の中心です。それ以外は、「モイム」と呼んでいる会合を1～2カ月に1度程度の頻度で行い、学習会や情報交換、交流会の準備などを行っています。2009年沖縄大会以後は、沖縄での韓国・朝鮮人戦争被害者の実態を明らかにするために聞き取り調査を行っています。

Q 交流会はどんな会？

A 中心は授業交流です。1年間、歴史や文化、人権など共通のテーマで授業を行い、授業報告をもとに討論します。授業報告には、子どもの感想を入れるようにしています。3泊4日の中で1日はフィールドワークを行います。毎回、授業研ならではのディープなフィールドワークが準備されます。両国の教育的な話題をテーマに講演を聞いたり討論したりすることもあります。

Q なにか、かたい感じがするのですが・・・。

A 交流会のもう一つの中心は、プログラム以外の交流です。食事の時、フィールドワークの移動中、そしてなんとといっても夜の交流・・・これこそが交流会のだいご味です。韓国の人たちは歌や踊りが大好きで、3日目の夜のレセプションはとても楽しい時間となります。

Q 言葉はどうしてるの？

A 全体会や講演会などでは、通訳をお願いしています。そのほかの交流では、辞書を見ながら片言で話したり、言葉のできる人を間に話し合ったりしています。韓国語ができなくてもたくさんの友達をつくることができます。



Q 最近日韓関係が悪くなっているようですが、大丈夫ですか？

A 教科書問題や戦後補償の問題、領土問題、そして首相の靖国神社参拝など、大きな問題があり、政府間の対話が難しくなっています。しかし、20年の月日の中で培ってきた友情は、日韓関係が厳しくなっているこのときにも揺るがないものに育っています。この友情は、それぞれの国の在り方に私たち自身がどう関わるのか、考えを深めさせてくれます。

Q 交流会の様子を詳しく知りたいのですが・・・。

A 毎回の交流会は報告書にまとめてあります。授業報告や講演、話し合いの記録、参加者の感想など、写真も豊富に載っています。また、会報「ウリ」(私たちの意)も御覧ください。

Q 今年の交流会はどこでやりますか？

A 今回の交流会場である埼玉県嵐山にある国立女性会館は、実は2011年に行う予定だった場所です。下見も済ませ、フィールドワークの計画も進んでいたのですが、3・11の地震・津波・原発事故により、急きょ場所を変更して韓国で交流会を開きました。ですから、今年の交流会は、再チャレンジということになります。男女共同参画社会の形成を目指すこの施設は、東武東上線武蔵嵐山駅から徒歩15分(バスで4分)。広大な敷地の中に充実した設備が整えられています。今年の交流会もきっと熱い大会になることでしょう。ぜひ、ご参加ください。

第20回交流会埼玉大会

2014・8・1(金)～4(月)

国立婦人会館(埼玉県嵐山)

◎詳しくは次号のウリをご覧ください。

短信

○首相がオリンピック誘致で「完全にコントロールしている。」と言ったときは、言葉を失いました。どうしてこの国が原発を売ることができるのか、理解できません。

○今、この時も、放射能の不安の中にいる子や、住み慣れた街を離れ、心細い思いをしている子どもがいることを覚えます。避難している子どもたちを学校がどのように受け止めているか、情報を集めています。身近な情報をご存知の方、連絡をください。

○次回モイム

2月1日(土) 14:00～17:00

是非ご参加ください。

Page 20

ウリ90号 2014年1月28日

日韓合同授業研究会

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-9-11

マールコート麹町303

吉峯総合法律事務所内

事務局連絡先

E-mail larrabee1991@yahoo.co.jp

会費納入先

郵便振替 00170-1-428530